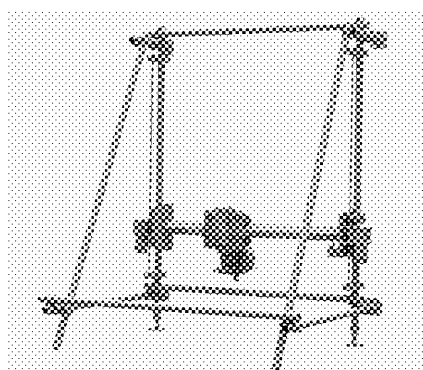


ボイラ壁耐火物 高圧水で解体

不二鉋材が新工法

無人化 工期短縮、水管傷めず



不二鉋材（大阪市北区、水谷基泰社長）は、ゴミ焼却施設や発電所のボイラ壁耐火物補修時に、内部のボイラ水管を傷めずに耐火物のみを無人で解体できるウォータージェットによる新工法を開発した。人力で解体していた従来に比べ大幅に省力化、工期を短縮でき、水管損傷事故も防げる。同工法で2024年度に10件の受注を目指す。

不二鉋材は高速道路リフト補修工事で主流のボイラ壁耐火物補修時に、内部のボイラ水管を傷めずに耐火物のみを無人で解体できるウォータージェットによる新工法を開発した。人力で解体していた従来に比べ大幅に省力化、工期を短縮でき、水管損傷事故も防げる。同工法で2024年度に10件の受注を目指す。

不二鉋材は高速道路リフト補修工事で主流のボイラ壁耐火物補修時に、内部のボイラ水管を傷めずに耐火物のみを無人で解体できるウォータージェットによる新工法を開発した。人力で解体していた従来に比べ大幅に省力化、工期を短縮でき、水管損傷事故も防げる。同工法で2024年度に10件の受注を目指す。

不二鉋材は高速道路リフト補修工事で主流のボイラ壁耐火物補修時に、内部のボイラ水管を傷めずに耐火物のみを無人で解体できるウォータージェットによる新工法を開発した。人力で解体していた従来に比べ大幅に省力化、工期を短縮でき、水管損傷事故も防げる。同工法で2024年度に10件の受注を目指す。

裂が発生しており、同作用で破壊しやすい。一方、耐火物で被覆している蒸気発生用水管は鋼製のため亀裂が発生せず、高圧水が当たっても損傷しない。現在、耐火物補修は手作業で解体工具を用いて行っているが、耐火物だけでなく水管を損傷する事故が多発している。新工法による無人化で作業スピードを従来の3～5倍にスピードアップできるほか、作業者不足や労働災害などの問題解決にもつながる。同工法に使用する小型装置の製造はスギノマシン（富山県滑川市）が行う。

裂が発生しており、同作用で破壊しやすい。一方、耐火物で被覆している蒸気発生用水管は鋼製のため亀裂が発生せず、高圧水が当たっても損傷しない。現在、耐火物補修は手作業で解体工具を用いて行っているが、耐火物だけでなく水管を損傷する事故が多発している。新工法による無人化で作業スピードを従来の3～5倍にスピードアップできるほか、作業者不足や労働災害などの問題解決にもつながる。同工法に使用する小型装置の製造はスギノマシン（富山県滑川市）が行う。